
病い

草薙 周

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

病い

【コード】

N1358D

【作者名】

草薙 周

【あらすじ】

そのひとは、ただの友なのか。はてまた「特別」なのか。突然死んでしまった、友への切ない思いと告白。

病い

私は、病である。

医者の手には負えぬ、病である。

不治の病だ。

どうにかしてほしい。

彼の手紙が私のところに届いてからというもの、私は誰の手にも負えぬ病に取り憑かれたのである。

どうして、

どうして会ってくれないのだ。

あなたは僕を避けている。

どうしてだ。

何度も不躰な手紙を送ったのは悪いと思うのだが、何故そんなに僕を避けているのだ？ 勝手我が儘なことをいったのは、どっちもどっちだろうに。そうだろう？

いや、僕のほうが少しは悪かったのかもしれない。

わかっているのに、あなたばかりを責めてしまふ。どうしようもない奴だ。

この間あなたに僕のことを本当の友だと思っているのか、しくしく問いただしてしまったことが悪いのか？ 教えてくれ。

もう、一年もあなたと会っていないのだ。一年もだ。あなたは僕に会おうとしない。僕の気持ちをちっともわかってくれない。わかってくれないまま、新しい生活に入り、僕のことを見向きもしてくれない。置いてきぼりにされた気分だ。

だから、しつこく問いただしてしまつた。僕はあなたの何人もある友の中の一人なのか？

あなたの「特別」に入ることはできるのだろうか？

病い

僕はあなたの中にある僕に対する特別度が知りたかったのかも
れない。さぞかし憤慨したことだろう。しかし、わかってくれ。
そうしなければもう我慢ならなかったのだ。あなたしかいな
ったからだ。

僕には、あなたしか友がいなかった。

だから、

だからお願いだ。

最後にたった一つ願いを聞いてくれ。

もう、むりじいしない。お願いだ。

僕はもうすぐ死ぬだろう。そんな予感がしている。

胸が苦しいのだ。本当だ。嘘じゃない。

絶対に嘘なんかじゃない！

僕の病はだんだん酷くなってきている。

もうすぐ死ぬのだ、きつと。

そうなんだ。きつと死ぬ。

この間は郷里から両親が見舞いにやってきて、なんでもしてやる
から、などと背筋がぞつとくるようなことを云う。

なんでもしてやるから、だなんて。

もうすぐ死ぬから、せめてなけなしの情けでもかけてやろうとい
うのだろうか。

僕を馬鹿にしている。

今まで僕を粗野に扱ってきたのに、いったいなんなのだ。何様だ
と思っているのだ。

ああ、僕はもうすぐ死ぬのだ。

だから、お願いだ。

一度、僕に会ってほしい。

何故こんな衝動にかられたのかわからない。とにかく会いたい。
会って謝りたい。謝りきれないほどたくさん迷惑をかけてきたけ
れど、とにかく会いたい。

会えば思い残すことなどない。

病い

何を云っているのだ、僕は。

あなたは僕の頭がおかしいと思われるにちがいない。
けれど僕にもわからない。

何故こんなことを云い出したのか？

何故どんよりとした暗い気持ちになっってしまうのか？

何故？

ああ、早くしないと暗い暗い何も見えない深淵の闇に食らわれそ
うだ。

お願いだ。

どうか、お願いだ。

そう。

私は、あの人がまた嘘を書いてきたのだと憤りをあらわにし手紙
を破り捨てた。

今月になってからというもののあの人から三通も似たような内容の
手紙が届いている。あの人はよく行き詰まると、こんな内容の手紙
をよこすのだ。いつものことだった。

どうせまた、あの人の悲観症じみた言い訳が始まった、と私は口
の端を吊り上げて薄く笑った。

私はあの人と別れたかった。人と仲良くなると、いつも相手の良
くない部分ばかりが見えて、どうしてもそれ以上は踏み込めずに表
面だけのつきあいになってしまう。

私は自分の中にはいつてくる相手の存在をずっと拒否し続けてい
たのだ、たぶん、そう。怖かった。どうにもならないほど。

あの人は、ちょっと無神経だから私の心うちをわかってくれなか
ったのだ。

病い

だから、あの人が胸の病にかかって、東京郊外の病院に入院した
時は、小躍りせんばかりの喜びようだった。あの人とは距離をおき
たかったのだ。

とにもかくにも、あの人と離れ離れになれて嬉しかった。
けれど、本当はあの人と真面目に面と向かって付き合っていくのが怖かったのかも知れない。
あの人は初めて私の奥底に入ってきてしまった。防御していたのに。だから、怖かったのかも知れない。

けれど、
けれど、あの人は死んだ。
本当に死んでしまった。
突然に。事故で。

しかも病気だったことは嘘ではなかった。あの手紙は嘘ではなかったのだ。

何故気付いてやれなかったのだ？
何故あの人の気持ちをわかってやれなかったのだ？
無念だ。

たまらなく嫌いだったあの人の顔が浮かび上がって消えないのはどうしてだろう？

あの人が死んだ。
死んだのだ。本当に。
信じられなかった。

彼の手紙を受け取ってすぐ後のことだった。私はあの人の訃報を両親から聞いた。
初めて涙が出た。

人のために泣いたことなど、一度もなかった。
こんなに悲しくて泣いたことはなかった。私は幼い頃から表情

のない子供だった。愛想もなかった。本当に腹の底から笑ったことがなかった。親から一度バカ扱いされただけで口数の少なくなつた私。バカは大学に行くな、と言われて、悔しくてもだれも相談する人がいなかった私。いつもヘラヘラしているね、とクラスメイトから言われて二度とにこやかにするまいと思つた私。親に褒めてほしいがために大学で首席をとつたのに、バカな大学に入って良い成績を取るの当たり前だ、といわれて卒業式にでなかつた私。融通のきかない子供だった。不器用だった。

でも、あの人と仲良くなれて少しだけ素直になれたきがした。なのに、私は酷く冷たい態度をとつてしまった。

私は、物心ついたときから三つのあることをやったら死のうと考えていた。三つのことが終われば、もうやることがなかつた。

今まで、私は過去五回、自分自身の葬式をあげてきた。死にたいのだけれど、死ぬ勇気のない私は何か文章を描くことで自分を埋葬してきた。そうして、新しい自分が生まれ、また死んでいった。

私は不意に二十歳の時、あと三回自分の葬式をあげたら、新しい自分は生まれなくなると心の中で思った。そのときは、たぶん死ぬのだろう。何故、あと三回だと思つたのかはわからない。

どうせ何の未来もないのだ。

憎いと思つた母は病気になり一生直らない。看病し続けなければならぬ。

逃げることもできない。もうどうしようもない。何もできない。

あの人は言った。

あなたが死んでしまつたら、僕はその後ずっとひとりぼっちになつてしまうよ。

病い

そう、あの人は優しい人だった。

ああ、これが夢であったならよかったのに。あの人にもう一度会えたかもしれない。

あの人の悲しげな顔が不意に浮かんで消えていった。

あの人の名前を呼びたくなかった。でも、何も意味のないことだった。

もしかして、私があの人を死に追いやったのかもしれないと考えて、呻き声を飲みこんだ。

あの人は足を滑らせて橋から落ちたと両親から聞いたが、私があの人に会おうとしなかったから、死んだなんて。

嘘？

ああ声が聞こえた。幻聴だろうか。

囁くような声だった。自分自身の中から聞こえてくるあの人の声は、おもったより優しかった気がする。

せめて、

私はあの人の骨をとってあげようと思った。せめて、骨だけは。

灰色の雲が辺り一面を覆っていた。

嫌な天気だった。気分さえどんよりとしている。

私はあの人の両親と共に火葬場へ行った。そうして箸を持ち、焼かれた白い骨をとった。白というよりも、それは少し黄色がかつた色をしている小さな骨。

私はそれをひとつだけとって手の中に収めた。

それをポケットに入れようとした途端、手に力を入れ過ぎて骨を壊してしまった。意外にそれはもろかった。そうして、何故だか泣

きたくなった。

粉々になった骨が握った手の隙間から落ちていくと、私は静かに嗚咽をもらしはじめた。

そう。

あの人の魂胆がわかった気がする。

あなたのせいだと言わんばかりの死にかたをして。私の脳裏には、もうあなたしかない。酷い、酷い人だ。

もうこれ以上ないというくらい自分のことだけを考えさせるなんて。もう、あなたはいないのに。

私は、病である。

もう一生治らぬ。

自分でいうのもあまりに恥ずかしい、

恋の病だなんて、

いまさら誰が知ったことだろう。

病い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1358d/>

病い

2009年3月24日09時18分発行